

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「成人式？」・「二十歳の集い？」・・・「成人って？」～

9日は「成人の日」でしたね。昨年4月の改正民法施行で成人年齢が20歳から18歳に引き下げられ、記念行事の名称見直しが相次いでいる。多くの自治体でこれまでの「成人式」が「二十歳の集い」に代わったそうです。

さて・・・その「成人式」・「二十歳の集い」について・・・水谷もりひとさんの宮崎中央新聞、「日本一心を揺るがす新聞の社説」より・・・

以前、成人式の会場でステージに上がって暴れたり、会場の外でお酒を飲んだり、式の間中ずっとおしゃべりをしていることが大きな問題となった。

各自治体では、会場を新成人の出身中学校に変えたり、さらに地域の方たちによる手作りの成人式にするなど対応を余儀なくされた。

ある自治体の成人式のスタッフの方々とお話しする機会があった。「後ろから見ていた分にはいい成人式だった。」という。この「いい成人式」というのは「何もトラブルが起きなくてよかった」という意味だ。

「でも前から見ていると、話を聞く態度がひどかった。」

という話がでてきた。なるほど、酒を飲んだり、暴れたりする新成人は

少なくなったが、人の話をふんぞり返って聞いていたり、式の間、ずっとおしゃべりしている光景が目立ったようだ。

・・・(中略)・・・

小学校に上がった頃から、子どもは集団生活の中で少しずつ「社会性」を獲得していく。それを私達は「成長」と呼んだ。学年が上がるということは、大人への階段を上がることに等しかった。

20歳になる頃には最低限の常識や社会性が身につけているはずということで、この国は彼らに「大人」・「成人」としての特権をいろいろ与えることにした。

ところが、高度経済成長やバブル経済の時代、経済成長に気を取られ、私たちはあまりにも忙しくて先人たちが当然のようにやってきた「子どもを大人にするという宿題」を忘れきたように思う。それが今見て取れる。

もちろん、ちゃんと「宿題」をやってきた大人たちもいる。・・・いい話を聞いた。

会場に宅配運送業者の仕事着を着た若者が入ってきた。1日休むと荷物の配達が1日遅れる。仕事を休むことができなかったということで、配達途中で会場に立ち寄ったとのことだった。

受付の人が「住所を書いてください。最後に記念写真を撮って送りますから。」

と言うと、「いやあ。この格好だから記念写真は結構です。」と断った。

その時その受付の女性は・・・

「何言ってるの！！あなたが一番カッコいいですよ！！」

よくぞ言ってくれたと思う。

そして、「あの子は聞く姿勢も良かったです。」と話していた。

出来上がった記念写真を見た。左端に移っていた緑色のジャンパー姿の若者が

・・・誰よりも・・・誰よりも・・・カッコよかった。



みなさんはどんな成人（18歳）を迎えますか？みなさんはどんな成長をして、「成人式？」「二十歳の集い？」を迎えるのでしょうか？・・・そのために・・・今・・・すべきことは・・・